

大阪大学
フツカルタイ・デジタル・プログラム
プログラム



2014年度

4月～9月

お好みのニーズや目的に合わせて各種多様なプログラムをご用意しております。
ご関心のあるページからご覧ください。

セミナー P03

1 時間～2 時間程度のプログラムです。
毎年開催している通例のものから今期初めて開催するものまで様々取り揃えています。

ワークショップ P06

1 日～4 日間、同じ参加者とともに一つのテーマをとことん追究していく
体験型のプログラムです。
今期は授業デザインワークショップ（日本語版・英語版）を用意しております。

e ラーニング・オンライン映像教材 P08

お好きな時間、場所でご覧いただけるオンラインの教材です。
個人でお好きに学習できるほか、FD 研修の教材としても活用いただけます。

TLSC NEWS P10

教育学習支援センター（TLSC）の今をお届けします。
セミナーやワークショップ等でお寄せいただいた皆様の声や、
現在進めているプログラム等のご紹介をしています。

コンサルティングサービス P14

授業やシラバス、評価などでお困りのことはありませんか？
シラバス作成に関する支援や授業撮影の補助、ICT 活用授業の支援等、
様々な教育支援のサービスをご用意しています。
お気軽にウェブサイトからご連絡ください。

スタッフ紹介 P15

教育学習支援センター（TLSC）のスタッフを掲載しています。

NEW !



グラフィック・シラバス作成法

120分

箕面キャンパス：

6月4日(水)15時30分～17時30分
場所調整中

豊中キャンパス：

6月5日(木)15時30分～17時30分
全学教育推進機構 A 棟 312 教室

講師：佐藤 浩章 (全学教育推進機構)

概要：一般的な文字で記述されたシラバスでは、学習内容の構造を示すのには限界があります。構造化されていない知識は学生の記憶には残りません。シラバスを図示化することで、学習構造はより明確になり、学生の理解度を高め、記憶度をあげることができます。グラフィック・シラバスを作成する過程で、教員自身は学習内容の重複や欠損部分を知ると同時に、本当に学習してもらうべき部分（キーコンセプト）はどこかを明確に理解し、扱うべきトピックや教育順序の変更点を見出すことができます。



自学自習を促すシラバス作成法

120分

吹田キャンパス：

5月23日(金)10時00分～12時00分
コンベンションセンター会議室 3

豊中キャンパス：

6月5日(木)13時00分～15時00分
全学教育推進機構 A 棟 312 教室

講師：佐藤 浩章 (全学教育推進機構)

概要：シラバスは「0回目の授業」とも言われます。その記載は十分に学生の学習を促すものになっているでしょうか。本セミナーでは、学生の自学自習を促すシラバス作成方法を身につけます。セミナー受講後には参加者の皆さんが「適切な授業目的・目標設定ができる」「学習を促す内容のデザイン原理を説明できる」「目標に対応した評価方法を選択できる」ことをめざします。



ループリック評価入門 ～時短・ブレない・公平な評価方法～

120分

吹田キャンパス：

6月3日(火)10時00分～12時00分
コンベンションセンター会議室 3

箕面キャンパス：

6月4日(水)13時30分～15時30分
場所調整中

豊中キャンパス：

7月2日(水)15時30分～17時30分
全学教育推進機構 A 棟 212 教室

講師：佐藤 浩章 (全学教育推進機構)

概要：1枚目のレポートの採点基準と50枚目のそれがずれていると気になったことはありませんか？評価にかける時間をもっと短縮できたら思ったことはありませんか？ループリックがそんな悩みを解決してくれます。ループリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。本セミナーではループリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、研修時間内に自らの授業で活用できるループリックを作成します。



科目の中での アカデミックライティング指導法

90分

日時：調整中

場所：調整中

講師：堀 一成 (全学教育推進機構)

概要：学生へのアカデミックライティング指導は、特定の科目だけで完結するものでなく、すべての科目担当教員がその能力育成に気を配る必要があります。これまで図書館でのライティング講習会などでの指導経験から、最低限学生に伝えるべき内容と、その説明のテクニックについて紹介します。



NEW !



自主性を育むプロジェクト学習 (PBL) を授業に取り込む方法

90分

吹田キャンパス：

6月19日(木)10時30分～12時00分
コンベンションセンター会議室3

豊中キャンパス：

7月3日(木)10時30分～12時00分
全学教育推進機構 A 棟 312 教室

講師：松行 輝昌 (全学教育推進機構)

概要：基礎セミナー「本をつくる」から生まれた大阪大学ショセキカプロジェクトは、学生が教員や出版社のサポートを受けながら企画から編集、デザイン、宣伝、販売までの一貫した本づくりを行うものです。その成果として2014年2月に『ドーナツを穴だけ残して食べる方法 越境する学問 - 穴からのぞく大学講義』(大阪大学出版会)が刊行されました。本プロジェクトは正規授業の学びと課外活動を有機的に結びつけ学生の創造性や起業家精神を育むアクティブラーニングとして注目を集めています。本セミナーでは、大阪大学ショセキカプロジェクトを題材として学生の自主性を育むための授業の効果的運営技法について解説します。

90分



大阪大学 オープンコースウェア入門

豊中キャンパス：

5月27日(火)10時30分～12時00分
全学教育推進機構 スチューデントcommons
開放型セミナー室

吹田キャンパス：

5月28日(水)10時00分～12時00分
コンベンションセンター会議室3

箕面キャンパス：

5月28日(水)15時00分～17時00分
未定

講師：竹村 治雄 (サイバーメディアセンター・全学教育推進機構)

概要：教育資源を無償で公開する Open Educational Resource 運動が世界的に進展しつつあります。大阪大学でも2005年よりオープンコースウェアを運営しています。本セミナーでは、OCWに興味をもたれている教員を対象に、世界および日本での動向、自分の講義教材をOCWとして公開する際に知っておくべきことなどを紹介します。(講師は、OpenCourseWare Consortium Board member, 日本オープンコースウェアコンソーシアム代表幹事、大阪大学OCW運営責任者です。)

120分



アクティブラーニングを促す教育技法

吹田キャンパス：

5月27日(火)10時00分～12時00分
コンベンションセンター会議室3

豊中キャンパス：

7月2日(水)13時00分～15時00分
全学教育推進機構 A 棟 212

講師：佐藤 浩章 (全学教育推進機構)

概要：「アクティブラーニングは自分の授業では無理!」と思っている方も多いと思います。アクティブラーニングは学生をグループワークに参加させることと同義ではありません。本セミナーでは、多様なアクティブラーニングを促す教育技法(例:「ペア・リーディング」「反転授業」「Think Pair and Share」「PBL」「EQリスニング」など)を説明し、手軽に講義法に取り入れる方法をお伝えします。また、アクティブラーニングの誤解を解くために、その意義についても再考します。参加者は一通り技法を学んだ後に、自らの授業に取り入れるために授業計画を立案します。

※参加者はご自身のシラバス(どれか1つ)を持参ください。

NEW !



オンラインで補講をしませんか? - 自動講義収録配信システムの活用例

60分

吹田キャンパス：

5月28日(水)10時00分～12時00分
コンベンションセンター会議室3

講師：黒田 嘉宏 (サイバーメディアセンター)

概要：止むを得ず休講することや、公的な欠席により一部の学生のために補講を行うケースがあると思います。本セミナーでは、講義の様子を撮影しておき、オンラインで学生が補講を受けられるようにするための方法を学びます。自動講義収録配信システム(ECHO)は、黒板の板書、スライド、音声などを一括収録し、授業支援システムCLEに自動的に表示させることができます。セミナーでは、ECHOの利用法を実演を交えてご覧いただきます。

120
分



ワークショップを いかに授業に取り入れるか

豊中キャンパス：

7月17日(木)15時00分～17時00分
全学教育推進機構 A 棟 212 教室

講師：森 秀樹(教育学習支援センター)

概要：近年、社会教育の場を中心に、「つくる」活動を通じた協同的な学びの場としてワークショップが注目されています。このようなワークショップは社会教育だけに留まらず、大学教育においても授業の導入などに取り入れることにより、学生が主体的に学ぶきっかけとなる大きな可能性を持っています。本講座では、実際にワークショップを体験しながら、授業にどう取り入れていくことができるのかについて考えていきます。

NEW !

90
分



研究倫理教育をどう授業・指導の なかに取り入れるか

豊中キャンパス：

6月12日(木)10時30分～12時00分
全学教育推進機構 スチューデントコモンズ
開放型セミナー室

吹田キャンパス：

6月19日(木)13時00分～14時30分
コンベンションセンター会議室 3

講師：中村 征樹(全学教育推進機構)

概要：近年、深刻な研究不正が相次いで発覚し、対応が求められるなか、研究倫理の教育をどう行うかは喫緊の課題です。ただし現状では、研究倫理教育が必要なすべての学生に対して研究倫理の授業を受講させることは困難です。とりあえずは、専門科目や通常の教育・指導のなかで研究倫理についての教育を行うことが必要です。だとすると、なにをどう教えればいいのかのでしょうか。本セミナーでは、研究倫理をめぐる近年の動向を踏まえて、研究倫理に関してなにをどう教えればいいのかについて考えます。データ等の捏造・改ざん・盗用といった代表的な研究不正行為だけでなく、研究データの不適切な管理や不備のあるデータ解釈、利益相反、守秘義務違反、不適切な論文著者記載、二重投稿などの行為も含めた研究倫理の全体像についても紹介します。

NEW !

90
分



iPad を活用した授業に関する 相談会 (A212,312 教室利用予定者向け)

豊中キャンパス：

4月1日(火)14時00分～15時30分
全学教育推進機構 A 棟 212 教室

講師：岩居 弘樹(全学教育推進機構)

概要：授業に関するアイデアをどのようにすれば実現できるか、教室の利用法などについての説明会・相談会を行います。実際に機器に触れながら解決方法を考えていきます。

NEW !

90
分



iPad を活用した授業に関する 相談会

豊中キャンパス：

4月～6月(火または木)16時30分～18時00分
全学教育推進機構 A 棟 212 または 312 教室

講師：岩居 弘樹(全学教育推進機構)

概要：授業に関するアイデアをどのようにすれば実現できるか、授業で実際に iPad を利用して困ったことをどのように解決するかなどの具体的問題点・課題についての相談会を行います。個別に、あるいはグループで、実際に機器に触れながら解決方法を考えます。

※相談内容については1週間前までにご連絡ください。



授業デザインワークショップ

18
時間

日時： 第3回 7月12日（土）～13日（日） 宿泊型研修（1日目9時～2日目14時頃）

第4回 9月1日（月）～3日（水） 通い型研修（1日目9時～3日目13時頃）

講師： 竹村治雄、佐藤浩章、森秀樹、大山牧子、根岸千悠（教育学習支援センター）

目的： 学生の学習を促すために、よりよい授業のデザイン方法と基本的な授業方法を身につける。

目標： ① 適切な授業目的・目標設定ができるようになる。

② わかりやすいシラバスを書くことができるようになる。

③ 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。

④ 様々な学習評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。

⑤ グループ学習の手法を、自らの授業で導入することができるようになる。

⑥ 継続的な授業改善に必要な学部・研究科を超えた教員間のネットワークを構築する。

対象： これから大学で授業を担当する予定の教員、すでに実施している授業を見直したい教員

定員： 各回32名

内容： 1. オリエンテーション（研修の目的・目標の確認／スタッフ紹介とお願い）

2. アイスブレイキング（参加者自己紹介／緊張緩和のためのグループワーク）

3. ミニ講義Ⅰ（自学自習を促すシラバス作成法：目的と目標の違い／目標と評価を対応させる／記憶・理解を促し、動機を高める学習順序）

4. ワークⅠ（シラバス作成とコースデザイン）

5. ミニ講義Ⅱ（様々な授業方法：講義法のメリット・デメリット／PBL／グループワーク／反転授業／ICT活用）

6. ワークⅡ（授業方法・学習評価方法の選択）

7. 中間発表

8. ワークⅢ（クラスデザインと教材作成）

9. ミニ講義Ⅲ（厳密・公平・時短の学習評価方法）

10. ワークⅣ（授業練習）

11. 模擬授業（10分間の模擬授業と授業研究）

12. 振り返り

注意事項： ※宿泊型研修では、与えられた学習テーマに基づき、グループ内メンバーで同一のシラバスを作成します。まだ授業を担当したことがない教員、連続する授業の一部しか担当していない教員、グループで課題を遂行する学習スタイルを好む教員、短期間で集中して学習したい教員の皆様に推奨します。

※通い型研修では、現在担当している授業もしくは担当予定の授業のシラバスをブラッシュアップします。すでに授業経験がある教員、個人で課題を遂行する学習スタイルを好む教員、諸事情で宿泊型研修に参加できない教員の皆様に推奨します。

※いずれも通し研修となります。途中からの参加・退出はできません。

※全てのプログラムを修了した参加者には「修了認定証」を交付します。

※本プログラムでは、『大学教員のための授業方法とデザイン』（佐藤浩章編著、玉川大学出版部）をテキストとして使用します。参加者には配布されます。



教育の国際化のための FD ワークショップ ー学習者中心のアプローチを学ぶー

20
時間

日時： 2014 年 9 月上旬

場所： 豊中キャンパス

講師： Julie Timmermans, Ph.D.(Centre for Teaching Excellence, University of Waterloo, Canada) 【予定】

主催： 教育学習支援センター 共催： 国際教育交流センター

目的： 学習者である学生の立場から教育をとらえ、講義の組み立て方や方法などについて、理論と実践を通して学ぶ。

対象： 意欲があり、今後部局において教育の国際化や FD に積極的に関わることが期待される教員

定員： 30 名

使用言語： 英語

内容： I. コースデザイン

II. マイクロティーチング (A 班または B 班)

* 詳細は以下「プログラム」参照

注意事項： ※参加者は上記「内容」の I. および II. (A 班または B 班) のプログラムに参加してください。

※申込者が定員を超えた場合、主催者が参加者を決定します。

※ II. マイクロティーチングの班については、参加者の専攻分野等のバランスを考慮して分けます。

※全てのプログラムを修了した参加者には「修了認定証」を交付します。

プログラム：

I. コースデザインー Course design ー

1. 日程及び各日のテーマ (時間は各日 10 ～ 13 時)：

1 日目： Course content

2 日目： Learning outcomes

3 日目： Instructional strategies

4 日目： Assessment methods & Next steps

2. 概要：各日程で設定されているテーマについての講義を受け、その講義を踏まえて自身の担当科目について具体的に検討し、ディスカッションを重ね、シラバスを作成していく。



II. マイクロティーチングー Microteaching ー (5 分間の模擬授業)

1. 時間：各日 14 ～ 17 時 (A 班又は B 班のどちらかで参加)

班分け：A 班：1 日目・3 日目

B 班：2 日目・4 日目

2. 概要：2 回のマイクロティーチング (模擬授業) を通して、教え方を実践的に学ぶ。参加者は自身の担当科目について 1 人 5 分のマイクロティーチングを行い、講師および他の参加者からコメントやフィードバックを得る。マイクロティーチングは撮影され、各自自分が撮影された DVD が渡される。2 回目のマイクロティーチングまでに、参加者は自分が撮影された DVD を観て、改善点等を検討し、それを踏まえて準備を行い、2 回目のマイクロティーチングを行う。



実践的 FD プログラムオンデマンド講義……………

(全国私立大学 FD 連携フォーラム)

大学教員の 4 つのアカデミック・プラクティス (教育・研究・社会貢献・管理運営) に対して、系統的な理論や実践に関するオンデマンド講義が準備されています。

講義例：



現代の高等教育

講師：金子 元久

「高等教育」と「大学」はどのように異なるのか。高等教育とは何か解説されています。「自らの大学の置かれた立場と今後の対応を考えること」ができるようになることを目指します。



大学の授業の設計

講師：沖 裕貴

「カリキュラムや授業の設計において、学習成果を明確にし、適切に到達目標 (行動目標) を設定することができる」ことを目指し、行動目標に即した成績評価について考えていきます。



大学評価論

講師：安岡 高志

大学評価は何のために行われるのか。大学評価が導入された背景は何か。国内外の背景や目的が解説されています。PDCA サイクルを機能させるための条件についても考察されています。



青年期の心理

講師：白井 利明

青年期の発達課題とは何か。青年期における葛藤の理解の仕方についての解説を受け、青年期の教育について発達の視点から考えていきます。



アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題

講師：三浦 真琴

アクティブ・ラーニングを実現するために提示された理論のうち、実践に資すると思われるものが紹介されています。「アクティブ・ラーニングを目指す授業をデザインできる」ことを目標としています。



発達障害のある学生の学びーアスペルガー症候群を中心にー

講師：荒木 穂積

発達障害の一つであるアスペルガー症候群の歴史と現状について学びます。アスペルガー症候群のある学生への学びの支援について理解を深めます。



高等教育における授業技術

講師：木野 茂

授業におけるコミュニケーションの差で授業効果が異なります。なぜ双方向型授業がよいのか。双方向型授業の具体的な例をあげながら説明されています。



研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介

講師：半田 利弘

研究者が留意すべき表現上・演出上の注意点が解説され、アウトリーチ活動を効果的に実行できるようになるヒントをどのようにして見つけるか紹介されています。



学習教材作成における著作権等の理解

講師：坂井 知志

著作権法の原則を知識として学ぶとともに、著作権法を遵守しながら学習教材をどのように作成することが望ましいのかについての方法論も学びます。



大学教職員のための大学管理運営基礎

講師：肥塚 浩

大学管理運営において教職員が果たすべき役割とは何か。大学の使命と教職員の役割を考える際に、大学のミッションから教職員個人のレベルまで連動していることが解説されています。



学生授業評価の読み方と授業への活用

講師：安岡 高志

授業評価に関して先進国である米国の例を題材に、どのような因子がどのように影響するか学びます。また授業評価に関して、日本の学生の意見も紹介されています。



近年の大学改革の進展を踏まえた大学管理運営の新たな発想

講師：山本 真一

急速に進展している大学改革が、大学管理運営にとってどのような意味を持つのか。「大学教職員として、新たな状況に応じ管理運営上の適切な判断ができる能力」を養うことを目標としています。

金沢電子出版 e ラーニング教材・・・・・・・・・・・・・・・・

「講義に活かせる FD 講座 [入門編]」

先生のノウハウをさらに活かせるコツとは？
日々の講義に活かせる映像教材です。



・「授業デザイン入門」 - シラバスの書き方 -

講師：佐藤 浩章

・「大人数講義入門」

講師：小林 直人

・「効果的なグループワークの進め方」

講師：佐藤 浩章・小林 直人・野本 ひさ

・「成績評価法」

講師：野本 ひさ

「授業に活かすプレゼンテーション」

授業や講義でのより効果的なプレゼンテーションのための
心構えと技術について分かりやすく解説しています。



・第1章 コミュニケーションとプレゼンテーション

・第2章 効果的なプレゼンテーションの構成

・第3章 プレゼンテーションの構成

・第4章 効果的なシート (パワーポイントを使って)

・第5章 効果的なシート (静止画や動画の扱い方)

・第6章 話し方と姿勢

・第7章 アクシデントに対処する

大阪大学 GFD プロジェクト 「Let's teach in English」

大阪大学教員が「自信を持って英語で講義できる」よう
になることを目的とした e-Learning 教材です。

(※大阪大学 GFD プロジェクトとは、大学教育のグローバル化に対応した FD
支援事業「教育のグローバル化、教員の英語力強化のための FD です。)



・ Internationalization of Education

高等教育の国際化について学ぶための教材

・ Theory and Practice

英語による講義方法を学ぶための教材

(自然科学分野・人文社会科学分野)

英語による討議方法を学ぶための教材

(自然科学分野・人文社会科学分野)

・ Discipline-specific Approaches

個別分野に特化した教材

大阪大学授業支援システム (CLE) 「大阪大学 FD 研修 映像配信」

全学ファカルティ・デベロップメント研修 (全学 FD)
の映像を配信しています。現在、2009 年度～ 2013 年度
の全学 FD のビデオを公開しています。



— 2013 年度 12 月～2 月の FD プログラム実施報告 —

『学生主体』の授業のデザインと運営手法 ～アクティブ・ラーニングの基盤 体験セミナー



12月4日（水）、企業向けのトレーナー養成プログラムで著名な米国ロバート・パイク氏を招聘して、参加者主体の研修手法に関する体験セミナーを開催いたしました。学外参加者も含め 30 名にご参加いただきました。

参加者の声

「実際のテクニックもさることながら、全体像を意識できた事がよかった」
「グループワークの実践方法がよく理解できた」
「この研修で学んだ、学生を巻き込み、参加してもらえる仕掛けの工夫を実践していきたい」

自学自習を促すシラバス作成法

12月25日（水）、佐藤浩章准教授（全学教育推進機構）によるシラバスに関するセミナーが行われました。現在作成しているシラバスは学生の学習を促すものになっているのだろうか？そんな振り返りの場にもなりました。

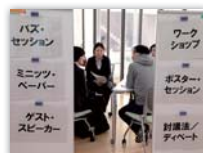
参加者の声

「すぐに実践して役立てられる内容だった」「自分の悩み所の位置がわかった」「シラバスの具体的な書き方がわかった」



アクティブ・ラーニングを促す教育技法

1月10日（金）、佐藤浩章准教授（全学教育推進機構）によるアクティブ・ラーニングに関するセミナーが開催されました。「ペア・リーディング」、「反転授業」、「PBL」、…様々な教育技法についての特徴や課題が紹介された後、自身の授業に取り入れるために授業計画を立案しました。



参加者の声

「様々な教育技法を教えていただけたので今後授業に取り入れていきたい」「今後、“深く学べる刺激”ということを意識して考えたい」「定期的に開催してほしい」

ルーブリック評価入門

～時短・ブレない・公平な評価方法～

1月10日（金）、佐藤浩章准教授（全学教育推進機構）による「ルーブリック評価」に関するセミナーが行われました。教育・学習の成果を厳密にかつ効率的に評価するためのツールである「ルーブリック」について紹介がありました。セミナーでは自身の授業で活用できるルーブリックをそれぞれ作成しました。

参加者の声

「評価するときに工夫・重視しないといけないポイントがわかった」「レポートの採点の具体的な基準を学生に示すことの重要性がわかった」「評価方法だけでなく授業全体の設計の見直しにつながった」



科目の中でのアカデミックライティング指導法

1月16日（木）、堀一成准教授（全学教育推進機構）が、アカデミックライティングに関するセミナーを実施いたしました。アカデミックライティングの指導は、ある特定の科目に任せるのではなく、すべての科目において気を配っていく必要があるということが説明されました。

参加者の声

「阪大生に特化して教員ができることが具体的に挙げられた点良かった」「学内の取組みを知ることができた」「1～2年生に是非アカデミックライティング書き方指導を行ってほしい」



大阪大学 オープンコースウェア入門



2月18日（火）、竹村治雄教授（サイバーメディアセンター・全学教育推進機構）によるオープンコースウェアに関するセミナーが開催されました。オープンコースウェアに関する国内外の最新動向や、自身の講義教材をオープンコースウェアとして公開するうえでの注意点等が紹介されました。

参加者の声

「オープンコースウェアに関する現状を知ることができて、大変有意義だった」「関心はあるが最新の情報につき知らなかったので今後の教育活動に活かしたい」

ワークショップをいかに授業に取り入れるか

2月19日(水)、森秀樹特任講師(教育学習支援センター)によるワークショップ型のセミナーが開催されました。実際にワークショップを体験しながら、授業にどう取り入れていくことができるのかについて一緒に考えていきました。

参加者の声

「自分自身が楽しめたので授業を実施するモチベーションが上がった」「実際に体験できてよかった」「自身がワークショップ参加者としての経験を通じその可能性と課題を実感できた」



ビデオラーニングのための 講義収録システム(ECHO)の活用と実践

2月28日(金)、黒田嘉宏准教授(サイバーメディアセンター)により、ECHO(講義自動収録配信システム)の活用方法が紹介されました。ECHOは講義の様子を撮影し、ウェブを通して閲覧することができるシステムです。詳しいECHOのご紹介については本プログラムガイドのP.13もご覧ください。

参加者の声

「システムの利用方法・メリットがよくわかった」「自分の授業で活用できる」「時間があれば何人かの受講生に実際にミニ授業(予行演習)をやらせてほしい」



第1回大阪大学授業デザインワークショップ



2月13日(木)～14日(金)の2日間、スペースアルファ神戸にて宿泊型のワークショップが開催されました。寒さが厳しい中、学内外から14名の教職員にご参加いただきました。1日目は、ミニ講義とグループワークを織り交ぜながら、グループ内で1つのシラバスの完成を目指します。各グループに学習テーマが1つずつ与えられ、そのテーマに基づき、大阪大学の共通教育系科目(教養教育科目)として設計し、15回のシラバスを作成していきます。専門分野や年齢の異なる教職員が3～4名で1グループとなり、同一テーマについて議論を重ねて作り上げていきました。中間発表では作成したシラバスを発表し、お互いにアドバイスをし合いながらより良いものへと仕上げていきました。2日目の最後にはシラバスをもとに、ある1コマの授業の10分間を1人ずつ発表し、参加者同士で意見を交わしながら振り返りが行われました。最後には全参加者に修了証が交付され、プログラムが終了しました。参加者の皆様、長時間にわたる研修お疲れ様でした。

参加者の声

- ・シラバスを作るということは授業の演出、教師の役割、授業後に学生がどうなっていて欲しいかをイメージするとても大切な作業である事がわかった。
- ・敢えて選ばせて頂くと、「知識と理解力開発に有効な教育技法」を沢山学ばせていただいた。
- ・大人数の講義だと、「学生の反応を捉えながら講義をするのは無理!」と思っていたが、そうではなく、大人数の中でどのようにして学生の反応をみていくかを工夫するのが教育する側の役割なのだなと思った。
- ・自分のプレゼンの良い点と悪い点を知ることができた。
- ・さまざまな分野の大学教員との交流のなかから、授業づくりのヒントをたくさん得ることができた。

2013年度のFDプログラムでは多くの参加者にお集まりいただきまして誠にありがとうございました。

今年度も様々なプログラムを企画・運営していきますので、是非ご参加ください。

— 2013 年度3月のFD プログラム —

平成 25 年度 教育の国際化のための FD ワークショップ — 学習者中心のアプローチを学ぶ —

本プログラムは今年度で第 11 回目を迎えます。今年度は Julie Timmermans 博士をお招きし、学習者である学生の立場から教育をとらえ、講義の組み立て方や方法などについて、理論と実践を通して学ぶ。

日時：2014 年 3 月 3 日（月）～ 3 月 6 日（木）

場所：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階会議室

主催：教育学習支援センター

共催：国際教育交流センター

後援：大阪大学「山本脩一郎・志郎教育改革基金」

講師：Julie Timmermans, PhD

(Center for Teaching Excellence, University of Waterloo, Canada)



Transferable Skills ワークショップ

Transferable Skills とは、非専門家とのコミュニケーション力やプロジェクトをマネジメントする能力など汎用的で且つどこにおいても必要とされるスキルのことで、研究を進める上でもまたキャリアを切り拓くためにも必須の資質です。今回は、大阪大学教員によるワークショップに加えて、Transferable Skills トレーニング開発の第一人者である英国エディンバラ大学の Turner 博士をお招きして、特別ワークショップを開催。

日時：2014 年 3 月 24 日（月）10：00～12：00

13：00～16：00

場所：豊中キャンパス 全学教育推進機構 A 棟 212 教室

対象：大学院生（博士後期課程、および博士を目指す博士前期課程学生）、ポスドクなど

①ワークショップⅠ：『はじめまして』のスキル

講師：大阪大学教員

時間：10:00～12:00

概要：様々な人と出会い、新しいことを始めるとき、まずはお互いのことを知ることが重要です。このワークショップでは、自分を紹介するスキル、相手に気持ちよく話してもらうスキル、話してもらった情報を表現するスキルに関するワークを行う。

②ワークショップⅡ：PhD Challenges and Working Effectively

講師：Jon Turner 博士（英国エディンバラ大学）

時間：13:00～16:00

概要：博士取得を目指す学生は、自分が情熱を持てる研究分野について、研究をすすめていくための多大な独立性、柔軟さ、自由を持つ一方で、時として孤独を感じ、方向性やマネジメントを失ってしまうこともあります。このワークショップでは、専門家としての有効性や時間とプロジェクトのマネジメント、コミュニケーションについて重点的に取り組む。

教育学習支援センター設立記念国際シンポジウム

グローバル化の進展等とともに、大学教育の質の高度化が求められています。これに伴い、大学教員には研究以外にも様々な能力が求められており、大学教員をいかに養成するかについても同時に問われています。本シンポジウムでは、海外および国内の研究大学で先端的に取り組んでいる専門家をお迎えし、多様な役割を担う大学教員をいかに養成していくか、大学教員の養成の在り方や方向性を探る。

日時：2014 年 3 月 26 日（水）13 時～17 時 45 分

場所：大阪大学 豊中キャンパス 大会館講堂

主催：大阪大学教育学習支援センター

共催：大阪大学全学教育推進機構

協賛：東京大学大学総合教育研究センター

関西地区 FD 連絡協議会



— おしらせ —

講義自動収録配信システム：EchoSystem のご紹介

「EchoSystem」は、教室での授業を自動収録（教員映像、音声、パワーポイントなど）し、授業後に受講生に自動公開するシステムです。受講生は、大阪大学授業支援システム「CLE」上の各授業ページから、復習として授業を視聴することができます。また、講義映像を予め収録し、予習教材として活用することも可能です。授業撮影をご希望の方は <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/echo360/> よりお申込みください。



ICT 支援型協働学習教室 (ICT 活用アクティブラーニング教室) のご紹介

豊中キャンパス 全学教育推進機構 A 棟 212 教室と 312 教室を ICT を活用したアクティブラーニング対応教室としてリニューアルしました。一人一台の情報端末 (iPad)、4 台のプロジェクタ、壁全面のホワイトボード、可動式のミニホワイトボードを備えています。机・いすも自由に配置することができ、様々なアクティブラーニングに対応することができます。

実際の活用例

「地域言語文化演習 (ドイツ語)」(岩居弘樹教授)

iPad は 1 人 1 台配布され、ホワイトボードは 3 名 1 グループに 1 台使えるよう配置されていました。ドイツ語でスキットを作るときには、iPad で会話の事例を探したり、ホワイトボードに書いたりしながら作業を進め、そのスキットを録音・撮影するときには iPad を使い、全体で共有するときには 4 面あるスクリーンに映し出し・・・と教室全体を使って授業しているのがとても新鮮でした。学生たちが自分たちで次々に作業を進めていく姿も非常に印象的でした。(見学者：根岸千悠)



「大阪大学未来の大学教員養成プログラム」始動!

今、大学現場では、研究力はもちろん、教育力も求められています。「大阪大学未来の大学教員養成プログラム」では、大学教員を志望している大学院生等を対象に、大学教員として教壇に立つための様々なノウハウを学ぶ科目を開講します。2014 年度は関連科目として「大学授業開発論 I」(知のジムナスティックス)を開講します。

「大学授業開発論 I」

本授業ではシラバスの書き方、講義法ならびにアクティブ・ラーニングを促す様々な教育技法の基礎、評価方法について基本的な理論を学びます。これらの知識習得と並行して、シラバスを作成したり、模擬授業 (マイクロティーチング)を行ったりといった演習を通して実践力を身につけます。授業形式は、講義法、他、ペア・ワーク、グループ・ワークを取り入れ、研究科を超えた大学院生の交流の機会を多く設定しています。あらゆる研究科の大学院生の受講が可能となっています。履修対象は修士課程および博士課程の大学院生です。



教育学習支援センターウェブサイト

ウェブサイトでは各種イベントのご案内や e-learning コンテンツのお知らせなどをしています。またイベントのお申し込みやコンサルティングサービスのお申し込みなどもウェブサイトから受け付けております。
<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>



Facebook 始めました!

Facebook ページを始めました。教育学習支援センターで実施する様々な行事の告知や報告などをさせていただきますので、皆様是非お気軽に遊びに来てください。どうぞよろしくお願い致します。
<https://www.facebook.com/tlscosakauniversity>



コンサルティングサービス

授業やシラバスの改善、教授法、アセスメントなどに関わる相談に対応いたします。

複数のサービスを組み合わせてもお申込みいただけます。

随時、受け付けておりますので、教育学習支援センターのウェブサイトよりお気軽にご連絡下さい。



教育学習支援センター スタッフ紹介

2014 年 4 月 1 日現在

— わたしたちが研修講師・コンサルタントを務めます —



竹村治雄
センター長
サイバーメディアセンター・教授
全学教育推進機構企画開発部長



佐藤浩章
副センター長
全学教育推進機構・准教授



堀 一成
副センター長
全学教育推進機構・准教授



岩居弘樹
全学教育推進機構・教授



兼松泰男
産学連携本部・教授



山口和也
全学教育推進機構・教授



黒田嘉宏
サイバーメディアセンター・准教授



松河秀哉
全学教育推進機構・助教



森 秀樹
教育学習支援センター・特任講師



大山牧子
教育学習支援センター・特任助教



根岸千悠
教育学習支援センター・特任研究員

有川友子
国際教育交流センター・教授

西森年寿
人間科学研究科・准教授

松行輝昌
全学教育推進機構・准教授

家島明彦
教育学習支援センター・講師

漁師みゆき
教育学習支援センター・特任研究員



お申込み・お問い合わせ

教育学習支援センター

大阪大学豊中キャンパス
全学教育推進機構 総合棟Ⅱ 417（4階）
<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>
TEL：06-6850-5606(漁師) 5617(根岸) 5659(大山) 5669(森)
FAX：06-6850-6511
email：office@tlsc.osaka-u.ac.jp

